

災害時要配慮者への支援

要配慮者は、災害が発生した場合には、情報把握、避難、生活手段の確保などの活動が、円滑かつ迅速に行いにくい立場に置かれています。また、災害発生から復興するまでの間、社会的な支援やこれまで利用していたサービスは、限定されてしまう恐れがあります。

したがって、「自助・共助」を念頭に置き、個々の状況に合わせた「日頃からの備え」が非常に重要です。こうしたことで、災害時の不安が解消し、また支援を受けやすい環境が整うこととなります。

※要配慮者とは・・・高齢者、障害者、傷病者、乳幼児、妊産婦、外国人など

【当事者が備えるべき最低限のこと】

- ・最低3日分の薬や処方箋のコピーを用意しておく。
- ・非常用持出品をすぐに持ち出せるよう近くに置いておく。
- ・自身の情報、支援者の連絡先やどういった支援が必要か記載したものを用意しておく。例：ヘルプカード、ヘルプマーク

※P.24の「わが家の防災・緊急情報」メモは必ず作成しておきましょう。



当事者の状況によって、対応も様々です。以下の点に注意して災害に備えましょう。

	当事者(家族)の備え	支援するときの配慮
肢体不自由	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋の安全確保 ・助けを呼ぶ笛の常備 ・車いすの点検及び車いすが使えない時の備え(杖、担架、おんぶ紐等の用意) 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉器具、非常用持出品の運搬。 ・車いす等での移動の介助。 ・介助方法を具体的に尋ね、「はい」「いいえ」で答えられる質問にする。
視覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・家具の配置を常に一定にし、安全な空間を確保。 ・避難経路の事前確認。 ・非常用持出品(白杖、点字盤、携帯ラジオは必須)の用意。 ・盲導犬を連れている方は、ドッグフードを多めに用意しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・杖を持っていない側、盲導犬と反対の側に立ち、肘の上をつかんでもらい、歩く速さを合わせる。 ・進行方向の状態をわかりやすく説明する。 ・盲導犬に声をかけたり、触れたりしない。
聴覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時にはメモで情報を伝えて欲しいと伝えておく。 ・筆記用具、メモ用紙、ホワイトボードなどを用意しておく。 ・あらかじめ「メッセージカード」を用意しておく。 ・非常用持出品(笛、補聴器用電池)の用意。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サイレンも防災行政無線も聞こえないため、手話、筆談、口の動きなどで情報を伝える。 ・声が聞こえる場合は、はっきりと口を開けて、端的な内容でゆっくり話す。
傷病者	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけの医療機関に災害時の対応について相談しておく。 ・薬や医療機材の確保。 ・人工透析の方は、受入れ可能な医療機関の確保。 ・病気についての手帳を詳細に記入しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話はペースメーカー等の医療機器に誤作動を生じさせる可能性があるため、適切な距離を保つ(20cm以上) ・本人や家族の依頼があれば、医療機関などへの連絡代行や、状況により処置の手伝いを行う。

	当事者(家族)の備え	支援するときの配慮
知的障害	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や仲間とはぐれた場合について、前もって家族で話し合いをしておく。 ・支援が必要なことを書いた「ヘルプカード」等の携行を心がける。 ・避難所等での過ごし方を絵や短い文に書いて本人と一緒に確かめておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不安になる言葉を避け、「大丈夫だよ」等安心させる言葉かけを行う。 ・ケガや痛みがあっても伝えられない可能性があるため、よく確認する。 ・身の回り品や食べ物等への強いこだわりなどがあるため、理解しながら支援する。
精神障害	<ul style="list-style-type: none"> ・健康保険証、おくすり手帳、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療受給者証(精神通院)を準備。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然な態度での声かけをする。 ・妄想や幻想のような話の場合でも、強く否定せず受容的な態度で向き合う。 ・薬の飲み忘れがないか見守る。
高齢者・認知症のある方	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から地域とのコミュニケーションを取り、地域に理解してもらう。 ・認知症の場合、災害時にはストレスで症状が悪化する場合があるため、かかりつけ医と相談しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑な説明などは、理解が難しい場合があるので、単純な言葉で情報を伝える。 ・ペースを理解し、無理のない移動に配慮する。
妊婦・子どものいる方	<ul style="list-style-type: none"> ・寝室やお昼寝の場所は、落下物や倒れてくる家具がないところにする。 ・物が散乱した時に備えて、寝室に靴を用意しておく。 ・避難施設を事前に確認しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者もほかの避難者に迷惑をかけないように緊張状態が続くため、周りの人が子どもの相手になるなど配慮する。 ・授乳や着替え、オムツ替えスペースを作る。 ・女性用品は人目に付かないところで配布。オムツや衣類などはサイズ別に配置。
外国人	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から近所の人にあいさつして、顔見知りになっておく。 ・パスポートや大事なものを持ち出せるように用意しておく。 ・災害で家財や車を失った時のために保険に入る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難施設を知らない方が多くいるため、声かけを行う。 ・簡単な言葉やジェスチャーを使い危険であることを伝える。 ・翻訳アプリを使ってコミュニケーションが取れることもあります。 ・ひらがなやカタカナで書いて、分かりやすい表現を心がける。 ・宗教によって食生活の違いや風習があるため配慮する。

